

# JCH A 清水新会長が方針



の国づくりは、藤野前会

内山「そして、会つくりです  
すね」

清水「JCH Aは昭和46年  
に発足し、やがて50年を迎え  
ようとしてゐる。今、正会員  
が2000軒、準会員も含めて  
6000軒という陣容だが、ま  
だまだ少ない。組織を運営す  
るうえでもっと役員、委員  
メンバーがほしい。ホテルが  
一万軒あるのだから、ます千  
軒の数字を目標にしたい。会  
つくりでは、情報連絡網の整  
備も必要だ。これまで理事会  
で話をした内容が会員に伝わ  
っていなかった。今というう  
ことをやろうとしているのの  
か、それを会員が把握できな  
い状態にしなければならぬ」

内山「会のインフラを整備  
するところから始めていくと  
いいですね」

清水「人つくりの対象は経  
営者だ。青年部や従業員に対  
象にするのなら話は分かった  
という理事の意見もあったが、  
私は経営者こそが地域つくり  
や町おこしの先頭に立つべき  
だという考えから、それがで  
きない人つくりをしてきたに  
きる人つくりをしていきたい  
。地域の役に立ち、日本の  
役に立ち、自分の生きてきた  
存在意義をそれぞれの会員が  
示せるような方向に持って  
いきたい。人つくりはすなわち  
意識つくりだ。お互いに意識  
を高めるための情報交換の場

## 藤野公孝最高顧問、前会長

多い。その言葉は非常に会員  
の胸に力を入れました。藤野チ  
ムで特に力を入れた点は「  
」と「地域活性化」といっ  
た事業のキーワードを示し  
た。だがそれだけではみんな  
を鼓舞できなかったの、4年間  
をかけて地方の支部を全部回  
った。地域には地域の問題が  
ある。その問題に私がうまく  
答えを出したのではなく、「一  
緒に悩んだり、一緒に考えた  
り」。身近なレベルでみん  
なと話をして「藤野が会員目  
線（話）のできる人とは思わな  
かったよ」といった感じで心  
を打つ明けてくれた。東京で  
会長として上から目線で話を  
しても全く通じない。みんな  
の結束を強めるためには地域  
のレベルでやらないとだめだ  
とつくづく感じた。

内山 政治家の人は遠い存  
在。私も偏見を持っています  
。しかし、私たちと同じ目線

さくても「ダイヤモンド」で頑  
張っているのがJCHDだから  
。国（とりは、藩力）を発揮  
できることだ。清水会長も  
そのことに気づき、この前の  
就任演説で地域が元気になる  
ことが重要と言われた。いま  
そんな言葉は聞いたことがあ  
りませんでした。共感し、もう私  
から改めて言うことはありま  
せん。後は頼むぞとエールを  
送る気持ちでいい。

「清水会長は御自分で自分の  
ホテルを経営し、ホテルコン  
サルタントになれるぐらいホ  
テル経営のことをよく知って  
いる。それがと全然違うとい  
うことだ。会長を引継ぐとい  
うのが抱える問題に對し  
て答えをあげるのではありません  
。一緒に悩み、一緒に考える  
姿勢を示すことで、会員みんな  
に「JCHDに入っていると  
良かった」と思ってもらえる  
ような会長になっていただきたい」

## 会員と共に考える会長に

# 藤野前会長からエール

内山「藤野前会長には約4年間、JCHAに貢献いただいた。この4年間を振り返ってみていかがですか」

藤野「私は政治家をやっていたから、最初は「藤野内閣」と偉そうに言っていたが、会長も会員もない、みんな平等の『藤野チーム』という感じで、この4年間、何回かこの危機を乗り越え、改正耐震改修促進法や最近では民泊の

## 会員と

問題などに、何か仕掛けをして功を奏したというよりは、むしろ一丸となつて取り組んでいた。最近「JCHA」がなかなか頑張っている」とあちこちで言われた。藤野チームの一段一段コソコソと登つていゝ姿勢が対外的に認められた証だ。

内山 藤野前会長が最初に掲げたスロガンを『小さくてもタヤモンド』。小規模でも地域・光る存在になれ、と。JCHAは個人経営者が

で考えられているのがひしひしと伝わってきました。清水新会長に期待することは、藤野「清水会長の言う『国々』の『会』は『入』ではなくて、『信』の『う』がたゞ理くりは親光立国のことだ」と理解している。親光立国の国といふのは親光立地域の集まり。親光で地域を元気にするところ。それぞれの地域で『小

# 社会の役に立つ団体へ

を持のち。JCHAとしての一つの役割だ。ネット経情報告集まってるが、同じ経営者が集まって話すと、JCHAがうらやまになることがある。また、その方楽しい」内山「そう。手楽しくなくはないけど」

清水「それは重要なキーワードだ。最後の宿つたのだが、これは根源的なことで、みんな自分の思いを良くしたいという思いが集まってきている。数年前、うちのホテルのユニットバスにヒが入った。十何室あった。修理するに300万円かかると言われた。明日から工事が始まる。という時にたまたまJCHAから「俺のところにそういっての理事会があつて、ある理事のことがあつた。それは欠陥品だ。うちはお金わずに無償で直して」と聞いて、すぐにホテルに電話して

工事をストップした。実際の利益につながる情報はありがたない。そういう経験は内山さんもありませんか」

内山「たくさんあります。構えて何かの情報を取りにくいというわけではなくて、雑談のなかにも『えっ、そんなことあるの』という話がいっぱいあった。腹を割って相談できるのが、私たちのような経験の浅い経営者には本当に助かります。話者さんだんだんメリットの方に来ましたが、今後会員を増やすためにはJCHAとしてのメリットがすごく重要になってきます」

清水「メリットは、会員みんなの業態が近くて、こっそり聞きたいこともお互いに教えられる場所があるというところが大きい。そして入ってみたいとなかなか分らないところかもしれない。JCHAにまず興味を持ってもらうにはNHK放送受信料の優待制度はJとKでポイントがあることを端的に分かりやすく伝える必要がある。伝えるにはマスコットの力が大きい。他の宿泊団体もメリットはあるが、JCHAは何かが華のかという華会員制度。これまでチェーンホテルから、JCHAからの情報が入るのは本音だからいいのだが、単体のホテルごとに入会費があるのはナンセンスだという話がありました」

内山「清水会長は以前からこれをアカデミーにしたい、学べる場になりたいと仰っていました。私もこの協会でたくさん学んできました。同じ年齢の仲間がこんなに頑張っているのだから私も負けられない」と

清水「JCHAの女性会員は多いです。特に役員はみんな頑張っている。内山、実務問題、人がいないとか、時間的な制約、ある程度は距離的な制約があって参りかきても「現場の仕事があるから行けない」と躊躇していました。が、思い切ってやっ

内山美樹業務執行理事

った。そこで議決権は法人につき、それぞれ単体のホテルは準会社として安い会費を入会できる制度を作った。これはJCHAの一つの売りになっている」

内山 「考え方として画期的でした」

清水 「それでNHKをはじめいろいろな事務手数料が入るわけなので、その収入を研

修など会員へのメリットにつ

てみると何とかなりました。そして、何とかなった以上のものを得られた。これは現場を捨てても、やりくりをして行かなくては、という気持ちになったのがJCHAです」

清水 「そのように思ってもらえるから、内山さんには今回、業務執行理事として、女性会の立場からご意見をいうべきだ」という意見をいいたくない」

内山 「微力ながら頑張ろう、新

新卸会長へのインタビュー  
は和やかな雰囲気で行われ  
た（東京のJCHJ本部で）



## 01



## A close-up photograph of two individuals in dark business suits shaking hands. The person on the left is wearing a light blue lanyard with a badge. The background is bright and out of focus.

① 会員ホテルの広告・宣伝 ② 経営者セミナー、研修会 ③ 経営に役立つ情報の提供 ④ 顧問弁護士による講習会・相談 ⑤ インバウンド（外客誘致）の宣伝 ⑥ 経営相談コーナーの設置 ⑦ 後継者育成塾（青年塾） ⑧ 全国の会員ホテル様と交流ができます  
⑨ NHK放送受信料がさらにお得になります ⑩ 各支部の活動に参加できます

JCHA とは、一般社団法人全日本シティホテル連盟の略称です。

JCHA 及び加盟ホテルは、健全、快適で効率的なサービスをそれぞれに相応する料金で提供する全国の優れたホテルで構成する観光庁所管の社団法人です。当連盟は、昭和 46 年 11 月 15 日設立され、昭和 49 年 10 月 4 日に運輸省（現在：国土交通省）の許可を受け社団法人となり、健全・快適でリゾートホテルで提供するホテルの施設・接遇の改善を図り、内外旅行者の利便の増進、わが国観光事業の発展と国際親善に寄与することを目的としております。

一般社団法人 全日本シティホテル連盟  
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-12-19 五反田 NNビル 2F  
電話 03-6672-6960 FAX 03-6672-6966